



“まちづくり”を考える情報誌



# おっ!! まっちい~

vol.

150

Let's まちづくり from now on

2025 OCTOBER

編集発行：群馬県県土整備部都市計画課



メインガーデン



群馬県ならではの食材や  
地域文化、クラフト作品



多様なアクティビティが楽しめます



リニューアルオープンするGunma Flower Park<sup>+</sup>

特集

## 地域資源を磨き人が集うまちづくり

- Gunma Flower Park<sup>+</sup>リニューアルオープン！
- 住んで良かった町へ ～オールインワンのまちづくり～

投稿

## リノベーションまちづくりシンポジウム2025

まちの価値を“見える化”する時代へー

数字だけでは伝わらない、都市の魅力をどう測るか

トピックス

## ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム





特集

## Gunma Flower Park<sup>+</sup> リニューアルオープン！

群馬県 都市計画課(取材協力 群馬県 農政部 野菜花き課)

ぐんまフラワーパークは、県民に花と緑の憩いの場及び花と緑の学習の場を提供するとともに花き産業の発展と地域振興を目的に平成4年4月23日に開園しました。

一方、開園当初の入園者は年間約89万人でしたが、令和3年では約19万人まで落ち込んでいました。また、開園から30年が経過し、施設の老朽化が著しく進んでおり、さらに、県有施設として年間約1億7千万円の指定管理料を支出して運営されていました。

このような状況を踏まえ、令和3年3月に公表された「県有施設のあり方見直し最終報告」においては、今後のフラワーパークのあり方として、県有施設としての必要性や見直しの方向性が示されました。

この見直し方針に基づき、広く民間事業者から事業アイデアを収集するためサウンディング型市場調査が実施されました。同年10月にはその調査結果が取りまとめられ、事業の実現可能性等の検証が行われ、今後のフラワーパークの方向性について検討が進められてきました。

令和5年3月に策定されたリニューアル基本計画では、サウンディング型市場調査結果等を踏まえ、民間のアイデアを活用したリブランディングによる改修により、集客力と収益性を高め、独立採算による持続可能な施設運営を行うためのリニューアル基本方針等がまとめられました。

その後、基本設計および実施設計の受注業者が(株)パーク・コーポレーションに決まり、リニューアルのコンセプトおよび整備内容が決定され、令和5年から改修工事が開始されました。

さらに、令和6年3月に(株)パーク・コーポレーションを代表団体とするぐんまフラワーパークJVが施設の指定管理者として指定され、10月10日のリニューアルオープンに向けて準備が進められています。



Gunma Flower Park<sup>+</sup> メインフラワーガーデン

### ■コンセプトと3つの軸

リニューアルするフラワーパークのターゲットは県内の子連れの家族や花好きのカップル、夫婦などとされています。メインコンセプトは「Enjoy! 花とあそぶ」。子どもが楽しめるだけでなく、大人も一緒に楽しめる、そして大人が子どもを連れて行きたくなる。そんなパークを目指しているとのこと。

このコンセプトに加え、パークは「3つの軸」をもとに生まれ変わる計画とされています。

軸の1つ目は「Flowers & Greens」。花や緑に囲まれて豊かな時間を過ごすことに加え、花を摘む・香りを楽しむ・花で創る・花を味わうなど、五感で楽しむ多様なアクティビティを通じて、新しい“花と緑の楽しみ方”が提案されています。

2つ目は「@Gunma」。園内のさまざまな場所に、群馬県ならではの食材や地域文化、クラフト作品などを取り入れ、群馬の魅力を再発見・再発信していくことを目指されています。

3つ目は「Nature Positive」。ネイチャーポジティブとは、自然環境の損失を止め、回復させ、自然の豊かさを未来へと引き継いでいく考え方です。パーク内には、バイオネストやロスフラワーを活用したアクティビティ、虫のためのゾーンなど、自然との共生を感じられる仕掛けが随所に取り入れられています。



五感で感じる様々なアクティビティが楽しめます





## ■ 施設の概要

リニューアル後の園内は、「HANA(はな)」「MINAMO(みなも)」「TEIEN(ていえん)」など、テーマごとに分かれた5つのエリアで構成され、各エリアで個性ある体験が提供される予定です。「HANA」エリアは、メインフラワーガーデンでは、花壇に起伏を持たせることで、花に囲まれているような立体的な景観を楽しめるようになっています。群馬ゆかりの花きであるバラ・アジサイ・クレマチスの3種のシグネチャーフラワーを中心に、季節によった変化も楽しむことができます。「MINAMOエリア」は、水辺に広がる花畑を眺めながら、デッキスペースで食事やお茶の時間をゆったり過ごすことができる空間です。群馬県産の食材を味わうことができるのももちろんですが、高崎市の伝統工芸「竹皮編み」や古民家の廃材を活用した壁材など隠れた魅力も発見することができます。「TEIEN」エリアは、群馬の里山の暮らしを感じながら食事を楽しめる和風の飲食店が整備されているとのこと。その他のエリアでは、子どもが思い切り遊べる広場が用意されています。



HANA メインフラワーガーデン



MINAMO ミナモエリア

園内のイメージ



高崎市の伝統工芸「竹皮編み」



「TEIEN」エリア

## ■ 取材内容

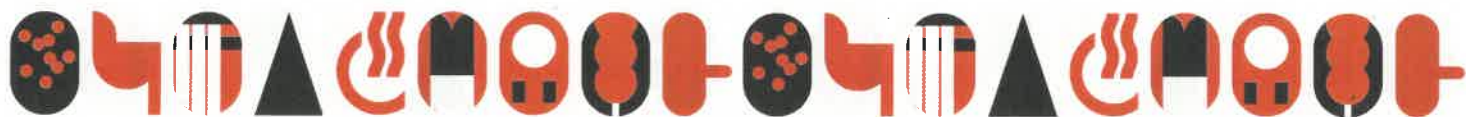
取材を通して感じたのは、同一の事業者が基本設計・実施設計から指定管理までを担っていることで、ハード面の整備から運営まで一貫した体制が整っており、どのエリアを見てもクオリティがしっかりと確保されているという点です。群馬ならではの要素や、ネイチャーポジティブの考え方に基づいて廃材などを活用した工夫が随所に見られ、ハイセンスな空間づくりに貢献しています。

今後も地域との連携も意識していく方針で、パーク内では県内自治体の特産の花にスポットを当てたマルシェの開催、パーク外ではワークショップの実施など、さまざまな企画が検討されているようです。

## ■ 結び

取材を通じて、ぐんまフラワーパークの新たな挑戦や、地域資源を活かした空間づくりを肌で感じる事ができました。花と緑を通じて、多様な世代に新たな価値を提供する場として生まれ変わろうとしている姿に、大きな期待を抱いています。リニューアルオープン後は、一日も早く現地を訪れ、その魅力をじっくり味わいたいと思います。





## 特集

# 住んで良かった町へ ~オールインワンのまちづくり~

明和町 都市建設課

明和町は、国道122号線や東北自動車道、東武伊勢崎線など交通インフラが整った群馬県内でも東京に近い町です。優れた交通条件を生かして工業団地を整備し、多くの企業が進出しています。

2023年4月に大型商業施設がオープンし、町の新しいランドマークは多くのメディアに取り上げられ、町の知名度が向上しました。このことにより、単なる地元愛や郷土愛といったことだけでなく、自らの地域をより良くするため積極的にかかわる「シビックプライド」が芽生えはじめました。

しかし数年前の明和町は入院できる病院もなく、町の保健センターの老朽化も進み、健診会場は役場庁舎で行うなど保健医療環境の整備が課題となっていました。また多くの企業が町へ進出し、昼間人口が多いことから駅利用者による関係人口増を図るねらいもあり、地域経済発展のため駅周辺の整備を行う必要がありました。

そして東武伊勢崎線川俣駅の橋上化から始まった「コンパクトシティ構想」。同構想は、生活に必要な施設を集約し利便性と効率性を高めるまちづくり施策で、2019年から事業を進めていきました。事業を進めるにあたり、スピード感を加速するため、株式会社邑楽館林まちづくりを設立いたしました。

保健医療環境の課題については、駅前に保健医療複合施設の建設を計画し、事業の実施にあたっては、民間資金を活用するスキームとし、事業主体を株式会社邑楽館林まちづくりが行うことで、民間資金を活用して町の財政負担を抑制した資金計画としました。2021年、川俣駅ペDESTロリアンデッキ開通とともに、医療機関と保健センターの複合施設「明和メディカルセンタービルA館・B館」が完成。また、駅周辺の賑わいの創出と企業活動支援のため、駅前に温泉を掘削しホテル誘致に取り組むとともに、さらなる地域医療保健機能の充実を図るため婦人科、整形外科、皮膚科、健診棟を含めたメディカル



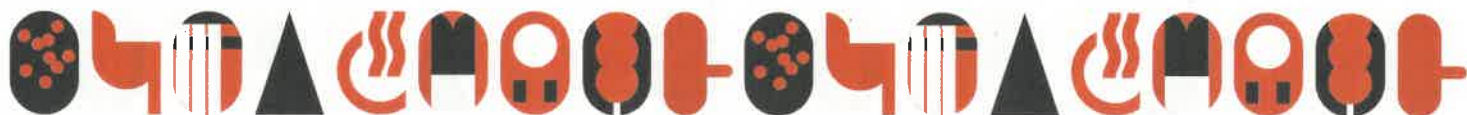
ペDESTロリアンデッキで各施設をつなぐ

センタービルC館の建設を計画。そして2025年9月にホテルがグランドオープンし、メディカルセンタービルC館が開業いたしました。川俣駅を中心としたこの事業は、駅とホテル、病院をペDESTロリアンデッキでつなぎ、利便性だけでなく、大規模災害時対応の避難所としての機能も持っています。



明和メディカルセンタービルC館

駅前開発は交通結節点としての利便性向上だけでなく、経済的波及効果、防災対策、そして地域アイデンティティの形成という多面的な価値を持ち合わせています。これからも明和町はこの資源を効率的に活用し、持続可能なまちを形成するための中核的施策事業を行っていきます。





投稿

## リノベーションまちづくりシンポジウム2025

まちの価値を“見える化”する時代へー数字だけでは伝わらない、都市の魅力はどう測るか

群馬県 県土整備部・都市計画課

2025年7月31日に「まちづくりの価値を“見える化”するー新たな評価軸と発信のかたち リノベーションまちづくりシンポジウム2025」が全国でリノベーションまちづくりを推進する株式会社リノベリング主催で開催されました。人口減少時代に突入した今、都市は「量」から「質」へと移行し、ハード整備だけでなく、目に見えにくい“まちの空気感”や“人の動き”までを含めた総合的な価値が問われています。

本シンポジウムでは、リノベーションまちづくりの先進自治体による実践報告や、定性的価値の評価手法に関する専門的な視点が共有されました。

冒頭の基調講演では、LIFULL HOME'S総研の島原万丈氏が登壇。日本の都市評価が未だに「人口」「床面積」「交通アクセス」など量的な指標に偏っている点に問題意識を示し、「センシユアス・シティ(官能都市)」という新たな都市評価の考え方を紹介しました。

この考え方では、都市を評価する単位を「名詞(もの)」ではなく、「動詞(アクティビティ)」で捉えます。例えば、「歩く」「味わう」「出会う」といった、まちで起きている人間の活動をベースにした都市評価指標が提案され、街の“感じ方”や“過ごし方”の質に注目する姿勢が印象的でした。

各自治体の取組発表では、埼玉県草加市が、2015年から続くリノベーションまちづくり事業における事業成果を定量的な評価をするため、リノベリングを主体とし、日本経済研究所の協力を得て実施した調査について発表しました。

この調査結果によると、リノベーションまちづくりの取組を認知し、アクティブに楽しむ人ほど、地域への帰属意識や幸福感が高まっていることが判明。さらに、地価や固定資産税収の上昇も確認され、地域経済への波及効果が可視化されました。



また、先進的な発信のありかたを実践する鹿児島県霧島市と愛知県岡崎市も事例を発表。霧島市では、「LIVE KIRISHIMA」という統一ロゴを導入し、行政施策の視認性向上や、市民の一体感醸成に成功。岡崎市のQURUWAエリアでは、WebメディアやSNS、刊行物などを通じ、まちの変化を発信し続ける体制が整備されています。これらの事例から「まちの価値を伝え、共感を得る」ための継続的な広報およびブランディングの重要性が浮き彫りになりました。

リノベーションまちづくりの提唱者でリノベリング代表でもある清水義次氏は「都市名で画像検索したときに出てくるビジュアルが、そのまちのイメージ」と指摘。まちのイメージ戦略も、価値の“見える化”の一環であることを強調されました。

また、西村浩氏(ワークヴィジョンズ)は、「これからの都市政策では“質”を測る指標が大切。質の変化を伝えていける都市が生き残る」と述べ、質の変化をどう語るかが問われる時代であると提言しました。

今後、ハード整備に依存した都市づくりだけでなく、「人がまちでどう過ごし、どう感じるか」を可視化し、評価・共有していくことが不可欠となると考えています。「歩きたくなる」「誰かに会いたくなる」「何かを始めたいくなる」など、アクティビティを育てる都市こそ、魅力的なまちといえるのかもしれません。

都市を“名詞”ではなく“動詞”で語る。それは、これからのまちづくりの新たなキーワードとなりそうです。





## ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

令和7年7月15日(火)、群馬会館にて「ぐんま“まちづくり”ビジョンシンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは、本誌デザイン募集に係る表彰式、自治体による取組紹介、そしてハートビートプラン代表・泉英明氏による特別講演が行われました。

### 第1部 表彰式

第1部では、令和6年度の本誌表紙デザイン募集で最優秀賞に選ばれた桐生大学の田村春日さんへの感謝状贈呈が行われました。若者の感性を活かした取り組みが評価されました。

### 第2部：みどり市「官民共創デザイン」の取組紹介

第2部では、みどり市都市計画課の高瀬聡氏が登壇し、「大間々官民共創デザイン」について紹介されました。同市では令和4年度から「リノベーションまちづくり事業」を実施し、既存の資源を活用し、民間主導の取り組みが進められてきました。令和5年度からは、民間の「やりたいこと」を行政計画に反映させる新たなまちづくり方針の策定がスタート。対象エリアは大間々町中心部で、策定では「既存資源の活用」「民間主導＋行政支援」「小さなアクションの同時展開」が重視され、市民や行政職員、有識者が参加するワーキンググループで議論が重ねられました。令和7年3月には、エリアビジョン「みらいをつくるみんなのさんぽ～おおまま・わがまま・あるがまま～」が公表され、市民が主役となるまちづくりが目指されています。



取組紹介の様子

今後は、中心市街地の空洞化や経済循環率の低下といった課題に対し、ウォークアブルなまちづくり、リノベーションスクール、ポケットパークの社会実験などを展開される予定です。

### 第3部：特別講演「新たなまちづくりのプロセス」

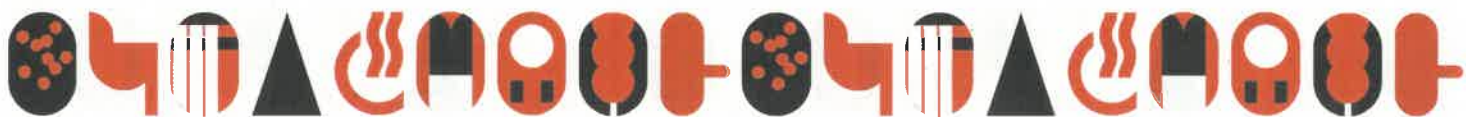
第3部では、泉英明氏による特別講演「エリア価値を高める新たなまちづくりのプロセス」が行われました。従来の「行政主導で先に施設を整備する手法」に代わり、初期段階から市民や運営主体が関与する「逆三角形型プロセス」の重要性が強調されました。

この手法では、「作る人＝使う人」と捉え、社会実験を通じて将来の活動や収益性を検証し、空間・制度設計に反映させることで、実行力あるまちづくりを目指します。事例としては、大阪の「北浜テラス」や「なんば広場」が紹介されました。



特別講演の様子(泉英明氏)

今回のシンポジウムを通じて、都市の魅力は「空間と人の活動の掛け合わせ」にあること、そして持続的なまちづくりには行政と民間が対等に連携し、マネジメントに重点を置くことの重要性が再確認されました。





# マーチィ's ROOM

## マーチィの掲示板

### 国土交通大学校での研修を終えて

群馬県 都市計画課 企画推進係 山本 凌也

7月8日～18日までの11日間、国土交通大学校における土地区画整理事業についての研修に参加しました。私は都市計画課には4月からの配属なので、土地区画整理事業の実務経験が乏しい状態での研修参加でした。研修で学ぶ内容のほとんどが初めて見聞きする内容だったので、研修を通して区画整理の基礎をきちんと正しく定着させたいと思いました。また、学ぶだけではなく、演習や課題研究において、他の経験のある受講者の補助で終わらずに、学んだ知識を活かし自身の手でアウトプットを生みたいとも思いました。

本研修における座学講義では、土地区画整理事業に関する制度や計算方法を、演習や事例紹介を交えて学ぶことができました。中でも換地計画の講義が個人的にはとても印象に残っています。事業のスタートからゴールまで、どういったステップがあり、どのような資料を作成するのかを換地計画の講義から学ぶことができました。特に建物を従前地から換地先へ移転する際、土地の登記上の扱いはどのような処理となっているのか疑問でしたが、仮換地指定によって土地の使用収益権を移せると聞いてとても納得しました。そのほか近年事例としても多い再開発との一体的な施行についての講義では、土地区画整理事業だけでなく市街地再開発事業についても深く理解することができ、事業間の連携について学ぶことができました。

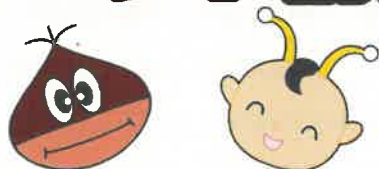
研修期間を通して行うゼミナール課題研究では、沼袋駅周辺を対象地区として設定し、土地区画整理の手法を活かしたまちづくり計画の策定に取り組みました。事前に現地視察を行いました。対象地区へは初めての訪問であったため、地域の様子がとても新鮮に映りました。中野区職員の方の説明もあり、課題抽出は比較的スムーズにできたのですが、それらを解消するための整備計画を作るのは苦労しました。課題発表では鉄道の地下化による地域分断の解消を狙ったウォーカブルなまちづくりを計画し、また浸水想定区域にも含まれる地域であったため、防災力も向上できる地域づくりを提案しました。座学とは違い、課題研究は検討作業を通じて経験のある職員との交流ができ、学んだ知識を発表資料へ落とし込むことができたので、講義の応用や復習の一面もあると感じました。発表後の講評では、特に力を入れた防災力の向上やウォーカブルな都市空間の点を評価いただけたので、全体を通しての成果を実感できました。

今回の研修では、土地区画整理事業における換地や土地評価、税制や市街地再開発事業との連携など、基礎となる部分からその応用まで幅広く学ぶことができました。比較的長いようで、一から学ぶには短いような研修でしたが、基礎知識を定着できる結果となりました。業務の合間に研修資料を見直し、定着状態を維持させていきたいと思っています。





# まちづくり イベント情報



## 令和7年度上州沼田真田まつり

火縄銃演舞やキッズイベントなど盛りだくさん！  
ぬまた市産業展示即売会と同日開催。

■10月11日(土) 10:00~15:00(雨天決行)

■沼田城趾(沼田公園)

群馬県沼田市

西倉内町594

【お問い合わせ先】

沼田市観光交流課

TEL 0278-23-2111

(内線: 5033)



## ぬまた市産業展示即売会

沼田市の生産品、工芸品など「沼田の良いもの」を多数集めて即売会を行います。

■10月11日(土)、10月12日(日)

11日10:00~16:00

12日10:00~15:00

■沼田公園グラウンド

【お問い合わせ先】

沼田市産業振興課

商工振興係

TEL 0278-23-2111

(内線: 5005)



## 第1回「わんことさんぽ～愛犬と楽しむ1日～」

県立敷島公園にて初めてのDOGイベントを開催します！ワークショップやマルシェ、各種コンテンツ等を企画中。『秋の空気が心地よい公園で、愛犬とゆったりと楽しみませんか？』

■10月19日(日) 10:00~15:00

■県立敷島公園園路

(正田醤油スタジアム群馬西側)

【お問い合わせ先】

敷島公園管理事務所

TEL 027-234-9338



## HALLOWEEN PARTY ハロウィンパーティ WorkShop&フリマ

子どもも大人も仮装で盛り上がる屋外イベント、みんなで踊ろうハロウィンパーティやじゃんけん大会など。ワークショップとフリーマーケットも同日開催。

駐車場・入場料無料。

■10月25日(土) 10:00~15:00

■観音山ファミリーパーク

【お問い合わせ先】

群馬県立観音山

ファミリーパーク

TEL 027-328-8389



## 本と珈琲とちょこっとオヤツな1日

自然豊かな公園で読書やチェアリングを楽しみながら、こだわりの珈琲とオヤツやパンを手に気ままにくつろげる空間を…。『大人のための新しい公園の過ごし方』をテーマに開催される。県内外から約30の人気店が集結、同日「本のとりかえっこ」も開催。寄贈された本をその場で読む・持ち帰ることが出来る。フリーライブも開催決定。

■11月2日(日) 10:00~15:00

■観音山ファミリーパーク

【お問い合わせ先】

群馬県立観音山

ファミリーパーク

TEL 027-328-8389



総合建設コンサルタント

株式会社 アイ・ディー・エー I.D.A

コンストラクションマネジメント/インフラメンテナンス/都市計画・まちづくり/  
防災・減災事業/指定管理事業など、官民連携に関わる広範囲な事業展開

企業理念(STEP)



群馬県高崎市倉賀野町4221番地13  
TEL 027-384-6600  
FAX 027-384-6601  
URL: <https://www.ida-web.jp>

官民連携事業でお困りの際は、  
当社までお気軽にご相談ください。



県立公園アイ・ディー・エー群馬の森  
指定管理者(令和6年度)

## マーチの独り言



暑さも落ち着いて過ごしやすくなってきましたね。夏のイベントやお祭りなども楽しいですが、涼しい季節に快適にお出かけを楽しみたいタイプのマーチです。皆さんはいかがでしょう。

食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋と言われるように、お出かけ以外にもやりたいことが盛りだくさんで困ったものです。遠出した地で運動して、美味しいものをたくさん食べて、移動中には読書して、〇〇の秋を一度でクリアしようと画策中です。皆さんも〇〇の秋、楽しみましょう！

有料広告を随時募集しています。詳細につきましては、下記のお問い合わせ先まで、お気軽にご連絡下さい。

【お問い合わせ先】群馬県県土整備部都市計画課企画推進係

TEL 027-226-3661 URL <https://www.pref.gunma.jp/page/11493.html>

